

2010年3月期

第2四半期 **決算説明会**

2009年12月4日

代表取締役社長 中川 博司


 株式会社 **イナリサーチ** [証券コード:2176]

2010年3月期 第2四半期

決算概要

第2四半期 連結業績(前年同期との対比)

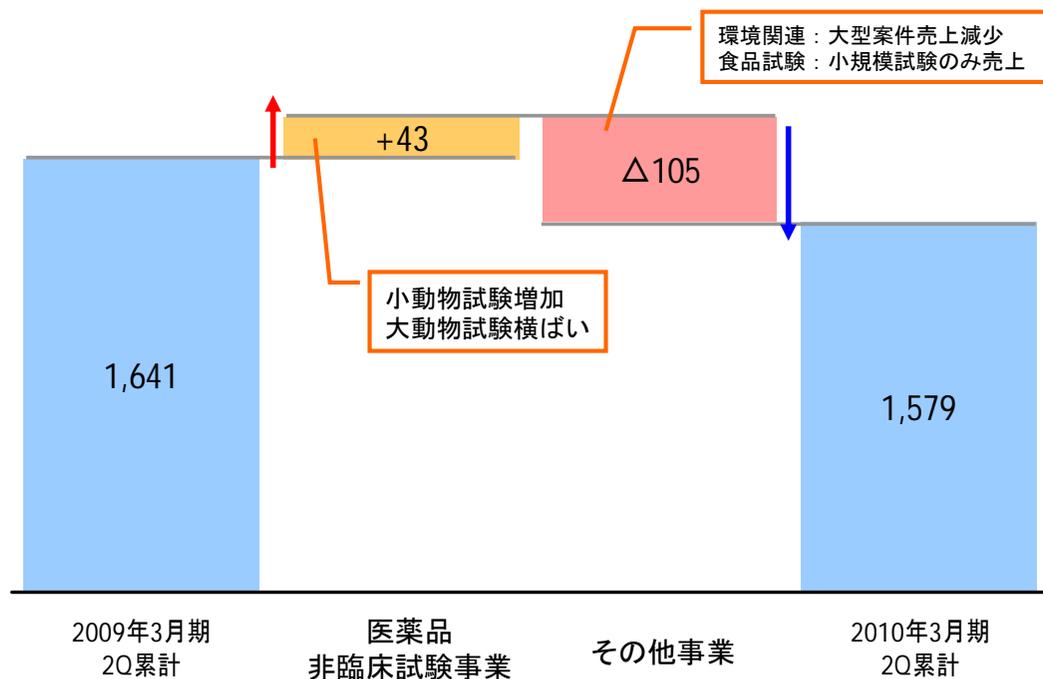
株式会社 **イナリサーチ**
(単位：百万円)

	前期2Q 2008年4-9月	当期2Q 2009年4-9月	対前期増減	
	実績	実績	金額	増減率
売上高	1,641	1,579	△61	△3.8%
売上総利益	591	438	△152	△25.8%
販管費・一般管理費	451	437	△14	△3.1%
営業利益	139	0	△138	△99.6%
経常利益	90	△24	△115	-
当期純利益	34	△25	△59	-

3

売上高増減内訳

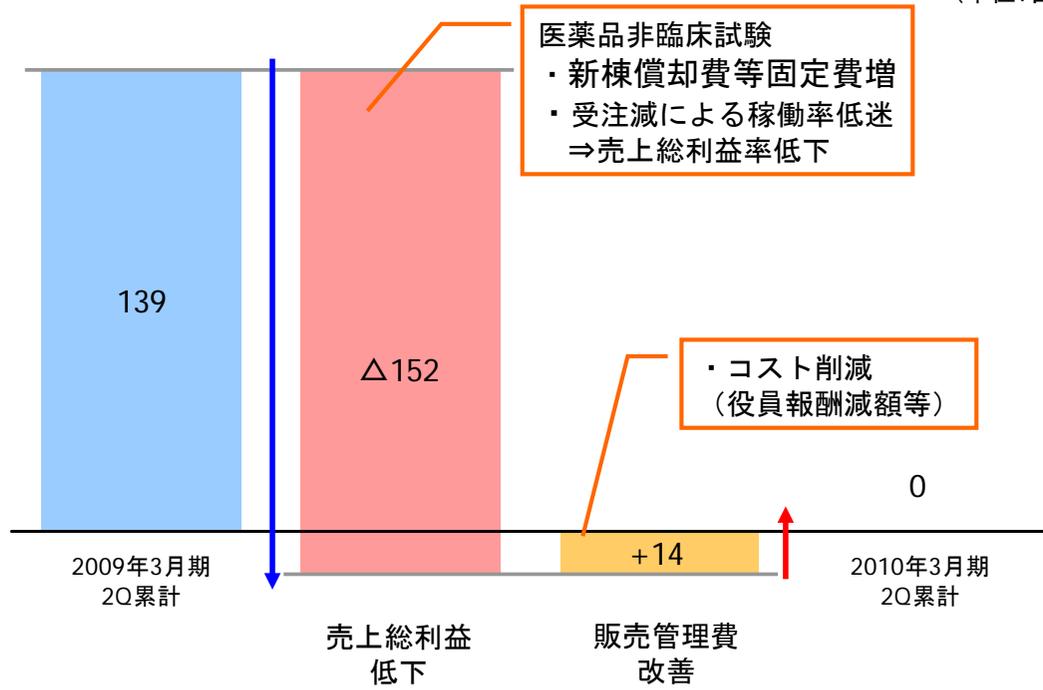
株式会社 **イナリサーチ**
(単位：百万円)



4

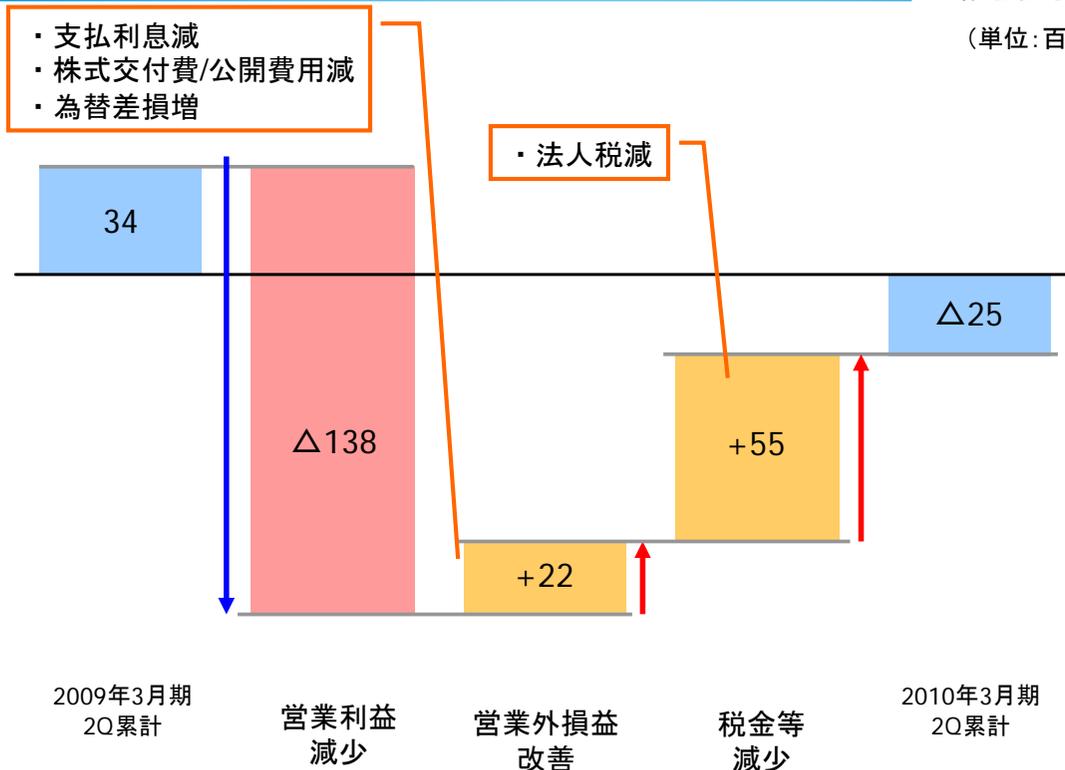
営業利益増減内訳

(単位: 百万円)



当期純利益増減内訳

(単位: 百万円)



キャッシュフロー

■営業活動によるキャッシュフロー：

主たる減少内訳：税金等調整前四半期純利益・前受金の減少

■投資活動によるキャッシュフロー：

主たる投資：前期は第7棟の建設費、今期は土地取得費

■財務活動によるキャッシュフロー：

主たる獲得資金：前期は株式発行収入、今期は金融機関からの借入れ (単位：百万円)

	前期2Q 2008年4-9月	当期2Q 2009年4-9月	対前期増減
営業活動によるキャッシュフロー	△122	△257	△134
投資活動によるキャッシュフロー	△442	△432	+9
財務活動によるキャッシュフロー	583	542	△40
現金及び現金同等物の増減額	10	△148	△158
現金及び現金同等物の期首残高	255	306	+50
現金及び現金同等物の四半期末残高	266	157	△108

7

受注高・受注残高

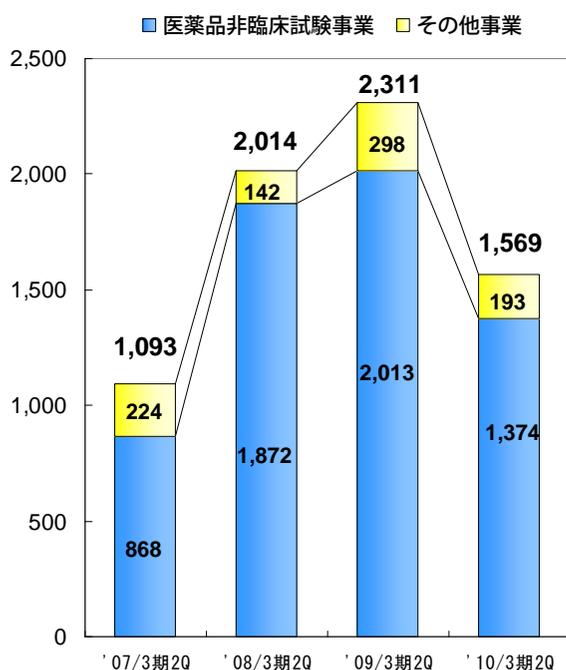
(単位：百万円)

	受注高		受注残高		前年同期比	
	前期 4-9月	今期 4-9月	前期 4-9月	今期 4-9月	受注高	受注残高
医薬品 非臨床試験事業	2,013	1,374	2,621	2,325	68.3%	88.7%
その他事業	298	193	201	187	64.7%	92.8%
合計	2,311	1,569	2,822	2,513	67.9%	89.0%

8

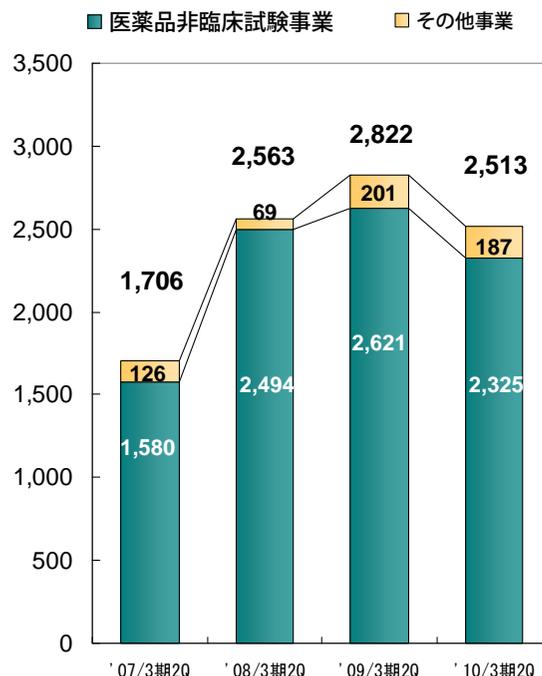
受注高・受注残高：推移

(単位：百万円)



受注高推移

(単位：百万円)



受注残高推移

医薬品業界の受注環境

研究開発の生産性悪化・経済不況により谷間の時期を迎えている

- ◆ 各国規制当局の審査基準強化や創薬標的の難度上昇
- ◆ 世界的な経済不況による開発の見直し・絞り込み
- ◆ 開発コストの上昇により一時的に臨床に投資をシフト
(実験動物市場の動向から非臨床試験は20%程度減少)

今後の動向

- ◆ 研究開発意欲は依然高いレベルにあり、基礎研究である非臨床試験も含めていずれ開発費・アウトソーシングともに上昇する
- ◆ 欧米大手製薬会社を中心に生産性向上を目指した独自の研究開発モデル構築が進む

当社の対応 (詳細は後述)

- ◆ 研究開発の効率化ニーズへの対応
- ◆ 海外マーケットへの対応強化
- ◆ 臨床試験事業化の推進

第2四半期 連結業績（業績予想との対比）

株式会社 **イナリサーチ**
（単位：百万円）

	当初年間予想 2009年4-9月	2009年4-9月 実績	対当初予想増減	
			金額	増減率
売上高	1,650	1,579	△70	△4.3%
営業利益	55	0	△54	△98.5%
経常利益	31	△24	△56	-
当期純利益	2	△25	△27	-

11

通期 連結業績見通し（業績予想との対比）

株式会社 **イナリサーチ**
（単位：百万円）

	上期	下期		通期		
	2009年4-9月 実績	当初予想 2009年10月- 2010年3月	今回修正予想 2009年10月- 2010年3月	当初年間予想 2010年3月期	今回修正予想 2010年3月期	対当初予測 増減
売上高	1,579	2,290	2,286	3,940	3,865	△74
営業利益	0	346	84	401	84	△317
経常利益	△24	328	62	359	38	△321
当期純利益	△25	194	28	196	3	△192

医薬品非臨床試験事業における、今までの受注低迷による影響が売上・利益のいずれに対しても大きく、今後獲得する受注が今期の業績に直接貢献する度合は軽微であることから、通期業績見通しを修正した。

12

2010年3月期 配当予想の修正について

■配当実績及び当期配当予想について

配当金額の推移

1株当たり配当金

2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期 当初予想	2010年3月期 今回修正予想
500円	1,100円	1,600円	1,300円	0円

医薬品非臨床試験の市場環境は回復しつつありますが、現時点では来期以降の業績について劇的な改善が見込まれる程の市況好転までは予想できない状況です。会社としては、将来の事業展開に必要な内部留保を確保し、安定した経営基盤を確立するため、配当予想を0円と修正した。

2010年3月期 第2四半期における

事業の取組み・進捗状況

医薬品 非臨床試験事業（1）

1) 研究開発の効率化ニーズへの対応

- ◆ 抗体医薬品、ゲノム創薬への流れの中でニーズが高まるサル試験の強化
- ◆ サルAV-Blockモデル（開発初期の段階で循環器への副作用リスクを検出）の市場PR、販売強化
- ◆ 遺伝子解析による効率的なサル試験の開発と提案

2) 海外マーケットへの参入拡大

- ◆ 欧州市場：営業拠点を設け、イヌ・サル的一般毒性試験を中心とした試験受注体制を強化
- ◆ アジア市場：韓国有数のパートナーとの協力体制構築
- ◆ 米国市場：営業拠点を設け、安全性薬理試験の受注を推進
- ◆ 上記マーケットでの営業活動を通じて、欧米大手製薬会社の研究開発モデルの情報を入手し、当社の参画方法を検討

医薬品 非臨床試験事業（2）

3) サル試験強化に向け、新棟（検疫棟・ストック棟）の建設決定

- ◆ 第2四半期にて検討・決定し、10月より着工

新棟の建設により

- ・ サル検疫能力 **100%増**
- ・ サル収容能力 **50%増**

施設名称 : 株式会社イナリサーチ 第8棟
立地 : 長野県伊那市西箕輪
建物構造 : 鉄骨造平屋建
建物面積 : 721平方メートル
施設用途 : 動物検疫・飼育室等
竣工 : 平成22年2月を予定
建設費 : 約203百万円

4) 安全性試験支援システム：Provantis™ の コンピュータシステムバリデーションを開始

- ◆ 情報処理力を高め、試験の迅速化を図る。2010年春の運用開始へむけ、準備中。

製薬会社の研究開発効率化ニーズへの対応

- ◆ Thorough QT試験※1 の実施体制作り完了
- ◆ フィリピンにおける臨床クリニック拡大のための施設改修着手
- ◆ 初期スクリーニングを目的とした探索QT試験の開発
- ◆ 国内外製薬会社へのフルサイズThorough QT試験及び探索QT試験のPR

※1 Thorough QT試験：臨床試験の初期段階で医薬品の循環器への副作用をヒトにより予測評価する試験。

厚生労働省 医薬食品局より、Thorough QT試験※1実施に関するガイドライン※2が発表された。（10月23日）

- ※2 「[非抗不整脈薬におけるQT/QTc間隔の延長と催不整脈作用の潜在的可能性に関する臨床的評価について](#)」（薬食審査発1023第1号）
「[ヒト用医薬品の心室再分極遅延（QT間隔延長）の潜在的可能性に関する非臨床的評価について](#)」（薬食審査発1023第4号）」

今後の取り組み

医薬品 非臨床試験事業

成長分野（サル）への資源の集中

高品質なサルの安定供給体制及び効率的な試験実施体制構築

- サル育成施設(PQCC)の増強によるINARPからサル供給増強
- サル育成・供給の第2ルートを中国・海南島で確保
- 本社検疫棟・ストック棟の建設によるスムーズな試験投入体制の構築

サルを用いた試験の強化・拡販

- バイオ医薬品（特に抗体医薬品）試験市場でのプレゼンスの拡大
- 欧州（営業拠点開設）、アジア、米国市場への営業強化
- 一般毒性試験の拡販
- 科学技術振興機構「独創化モデル」に採択されたAV-ブロック等の安全性薬理試験の国内外への積極的なPR

特質化試験の推進とキャンペーン実施によるサル試験シェアの拡大

医薬品 臨床試験事業

臨床試験ビジネス

Thorough QT/QTc 試験のビジネス導入

- ICH E14 ガイドラインに準拠したフルサイズ Thorough QT/QTc 試験への展開
- 探索的 QT/QTc 試験の拡販
- ICH E14 国内ガイドラインへの対応
- フィリピンの新臨床施設の稼働とボランティア体制(日本人含む)の更なる充実
- Phase I , Early Phase II 実施へのアプローチ

その他事業

環境関連事業

継続的な積極営業活動展開し受注拡大へ

- 超大型物件プロジェクトや国家プロジェクトへの参画
- 医薬品、環境機器関連学会・展示会での積極的なプロモーション活動

食品試験事業

顧客の視点に立った高品質なサービス提供を目指す

- 外部専門家と連携しコンサルテーションを含めた総合開発支援を展開
- フィリピンにおけるヒト試験の受注拡大

全社での収益改善・確保への取り組み

売上の確保と施設稼働率の改善

- 短納期試験の受注、飼育／試験機器の販促による今期売上げの上積み
- サル試験の受注拡大による第7棟稼働率の向上⇒売上総利益率改善

原価・一般販売管理費の徹底した削減

- 重点投資案件以外の投資の圧縮
- 試験プロセスにおけるムダ取りの実施、工数削減
- 在庫レベルの見直しと内製化による原価削減
- 販売管理部門における徹底した人件費・経費抑制の継続

ご清聴ありがとうございました

IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
社長室 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成21年12月4日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより平成21年12月4日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。